

12/21  
朝日

# 辺野古代執行「理不尽」

## 住民「民意何度も」

### 高裁支部判決

「代執行訴訟」の判決後、沖縄県知事を支援する集会で気勢をあげる参加者=20日午後6時49分、那覇市、吉本美奈子撮影

国が沖縄県の権限を奪うことと認める司法判断が示された。20日にあつた米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設をめぐる代執行訴訟判決。地元には怒りや戸惑いが広がるが、政府は埋め立て工事を急ぐ構えだ。

▼1面参照

裁判所前には多くの市民が駆けつけた。「何度も何度も民意を示してきた。理不尽の一言」。夫と訪れた嵯峨富美子さん（72）は、「那覇市」はそう話した。普天間飛行場に隣接する沖縄国際大2年の新城弘大さん（20）は、辺野古移設を好意的に考え

てきたが、県民の意思が顧みられない現状に、危機感を覚えるようになつたという。「地方自治が軽視されていて、本当におかしい。これは日本全体の問題です」

宣野湾市の松川正則市長は記者団に「法令にのつ

どった形で工事が進んでいくだろう」と語った。

辺野古移設を容認する立場だが、「裁判に至るま

でにもっと譲歩しながら

解決の道を探っていくべきだった。非常に残念だ」とも述べた。

玉城テニー知事は体調を崩し「判決内容を踏ま

えてきたが、今後の対応について検討する」とのコメントだけを出した。

判決は25日までに承認するよう命じており、玉城氏は改めて承認の可否を判断する。期限までに承認しない場合、国土交通省は代執行に向けた手続きに入る見通しだ。政

府関係者によると、斎藤鐵夫国交相が翌26日にも代執行する旨の事前通知を知事に出したうえで、仕事納めの28日までに代執行する日程案が浮上している。

その場合、着工時期は

年末には工事はしないだ

らう」と語る。

琉球大、早稲田大の江上能義名誉教授（政治学）の話

県民多数の思いを受けた知事が、政府に訴えても聞き入れられず、司法に希望を託したが、結局、三権分立の一つとして政府をチェックすべき司法に受け入れられず、県民の思いは行き場のない状態となつた。歴史を振り返れば、安全保障が関わる裁判で三権分立が機能しているとはいえない司法判断があった。そのしわ寄せを受けてきたのが、米軍基地が集中する沖縄だ。

日本本土を守るために「捨て石」とされた沖縄戦や、日

本の独立と同時に切り離された米軍統治など、辛酸をなめてきた歴史が沖縄にはある。政府が代執行による埋め立てに邁進（まいしん）すれば、差別や犠牲を強要する新たな歴史の一ページになる。

民主主義の政策決定は本来司法で決着すべきものではなく、対話で信頼を得て進めるべきものだ。国の主張に沿った判決だが、「沖縄県民の心情に寄り添った政策実現が求められる」という付言を、政府はいかに受け止めるのかが問われる。

（聞き手・上地一姫）

### 政策対話で信頼得て進めるべき

防衛省は日米間の合意を果たすためにも着実に工事を進めていきたいと考えた。林氏は「地元と意思疎通を図ることによって、沖

沿って対応していくことが重要」と強調したが、具体策を持ち合わせているわけではない。

（櫻井咲良、豊島鉄博、小野太郎、矢島大輔、田嶋慶彦）